

キーワード

防災, バリアフリーマップ, 車いす利用者, 避難経路, Diversity

作品紹介

1.背景と課題：取り残される「災害弱者」：日本では、地震、津波、線状降水帯による水害など、災害が常に隣り合わせの状況にあります。特に、車椅子利用者、手押し車を必要とする高齢者、視覚障害者など国内に400万人以上存在する「移動困難・制約者」は、災害発生時に「災害弱者」となり、避難が後回しにされたり、避難自体を諦めざるを得ないという深刻な課題に直面しています。福岡市の防災アプリ『ツナガルプラス』をはじめとする既存のシステムは、健常者には有効である一方、移動困難者にとって真に安全な避難ルートの提案には至っておらず、災害時における情報格差が依然として存在します。

2.目的：誰も取り残さない防災社会の実現：私たちは、この課題を解決するため、バリアフリー防災ルート共有マップアプリ「DiversDpMap²」を考案しました。本アプリの目的は、「災害が発生しても、移動困難・制約者に限らず全ての方が取り残されることなく避難できる世の中」を実現することです。平常時から災害後の避難生活まで、シームレスな支援を提供します。

3.主な機能：災害フェーズに応じた3つの統合的サポート：DiversDpMap²は、災害の「前」、「発生時」、「後」の各フェーズにおいて、以下3つの柱で利用者を総合的に支援します。

- ①**災害時の通知システム：**高解像度GPSデータを活用し、災害発生時に移動困難者の現在地を検知。状況に応じて事前に登録した家族、介助者、地域の消防団、交通事業者など、適切な関係者へ自動で、通知します。これにより、迅速な安否確認と救助活動を支援します。
- ②**安全ルート・避難場所の提供：**【災害前・訓練時】日常的に利用している安全なルート情報「DiversMap」を基に、避難所までの経路を事前に確認・訓練できます。【災害発生時】地震による道路の寸断や障害物発生時には、障害情報を通知し、安全な迂回ルートをマップ上で、リアルタイムに提案します。津波や洪水発生時には、避難所へのルートではなく、高台などへの「垂直避難」を促すアラートを表示します。
- ③**避難生活の支援（備品・避難所情報）：**【災害前】障がい当事者一人ひとりに必要な医療品やグッズを事前にリスト登録し、パーソナライズされた避難計画の策定を支援します。【災害後】障がいの状況に応じた設備（多目的トイレ、仕切りで落ち着ける空間など）が具備されている避難所をマップ上で検索可能。さらに、各避難所で備蓄されている物資の状況を共有する機能も搭載します。

4. マップイメージ：状況に応じた最適な情報提供

- ①**平常時・訓練時：**安全なルートで避難経路を確認
- ②**地震発生時：**障害物を通知し、迂回ルートを提案
- ③**津波・洪水発生時：**垂直避難を促すアラートを表示
- ④**災害後：**設備が整った避難所をマップ表示



5. 独創性と公益性

本アプリは、既存の車椅子向けマップ（WheelLog!など）や避難地図（逃げ地図など）とは一線を画し、「災害時の移動困難者支援」に特化している点に高い独創性があります。災害の「前・発生時・後」の全フェーズを一元管理できるサービスはこれまでになく、非常に新規性が高いと考えています。平常時でも「困った際の通知システム」として活用できる実用性を備え、災害弱者を含む全ての人々が公平かつ平等に避難できる社会の実現に貢献する、極めて公益性の高いプロジェクトです。